

平成22年度 宮崎県立日向工業高等学校 学校関係者評価書

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

評価項目 (重点目標)	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評定	学校関係者評定	学校関係者評価コメント	
生徒に自信と誇りと勇気を与える学校作り	各種競技大会等への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の活性化を図り、各種の競技大会等に上位入賞することにより、自信と誇りを持たせる。</li> </ul>	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒はどうしても楽をしたい、遊びたいと考えてしまうため、楽な方に引っ張られてしまう。いかに部活動に引き留めるかが課題であり、強い指導力が必要となるだろう。</li> <li>自己評価の仕方が主観的で、漠然としている。遠慮するような点数をなぜ付けるのか。「さわやかさ」「奥ゆかしさ」は美德ではあるが、今では死語とも言えるものである。自信がないと取られてもしかたがない。また、項目も多すぎるし、学校の売りとも言える2～3項目に絞るべきではないか。</li> <li>過去に遡ってデータを分析することにより、目標値や目安をはっきり決め、それを明示することが必要である。</li> </ul>	
	資格取得の奨励	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな資格に多くの生徒が合格することにより、自信と誇りを持たせる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>各種資格検定試験の合格率は、2月末現在50.7%（受験者1063名、合格者539名）であり、昨年の63%からは減少している。ジュニアマイスターは、昨年と変わらず3年生でゴールド2名、シルバー2名の計4名であった。資格取得の挑戦者も56名減少しているし、合格者も167名減っている。今後も各資格等の合格率のアップが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第二種電気工事士の合格者の増加や第一種合格者3名等、成果は出ているのではないかと。他校との比較よりも、本校の以前の成果と比較して評価すべきである。</li> </ul>
	地域貢献活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学生をはじめ地域の人達にテクノボランティアを実践することにより、自信をもたせる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>日工デーについては、今年度は残念ながら口蹄疫の影響で実施できなかった。出前授業を2校で実施し、研究公開授業に1校参加した。実施できた中学校では大変好評なので、積極的に中学校へ案内をすることが必要である。</li> <li>ボランティア活動については、財光寺駅利用生徒による駅の清掃活動を行った。工業高校の特色であるテクノボランティア活動については、各学科の課題研究の1班で取り組んだ。その中で、電気科の取り組みは新聞でも取り上げられ、紹介された。次年度においてもこの取り組みをさらに進め、内容の充実を努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日向市駅前のイルミネーション事業への参加をお願いします。</li> </ul>
	地域産業界等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>公的機関や大学、企業との連携を図り、実践的技術者の育成に努める。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域産業界の協力で各学科ごとの外部講師招聘や企業視察を実施した。また、県工業会人材育成部会との協力で、地元企業による生徒対象の進路講話の機会を持つことができた。また、11月には日向駅前での産業祭りに参加し、特設ブースにおいてもものづくりを通して来られた方に本校の活動をアピールすることができ、かなりの成果があったと考えている。</li> <li>行政も本校生に期待していることを理解させるために、2年生を対象に日向市役所商工港湾課の課長さんに講話をして頂いた。</li> <li>次年度も地元企業との交流を深め、年間計画の充実を図りながら、職員の研修等を含めたさらなる連携を深めて行きたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学生に製作を取り組ませる題材としては、興味や関心を引く視覚や聴覚にうったえる物の方が良い。例えば、簡単なラジオ製作も面白いと思う。</li> </ul>
	専門性を生かした大学等進学の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門性を生かして、国公立大学等へ進学する生徒を増やすことにより、自ら高い技能と理論を習得しようとする人材を育てる。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>工業技術部には、3年生3名、2年生10名、1年生1名、合計14名が加入し活動しているが、加入率が非常に低い。また上級学校へ進学した生徒が、私立大学2名、専門学校7名であった。私立大学に合格しながら、学費の問題で、入学を辞退しなければならなくなったケースがあり、保護者への説明等の充実も課題である。また、国公立大学に挑戦させるには、1年次からの、進学希望者集会や上級学校等の情報提供を担任・保護者・生徒に行い、早期に進学の意識を高める必要がある。</li> </ul>	

評価項目 (重点目標)		評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評定	学校関係者評定	学校関係者評価コメント
	新しい技術への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科の特徴を生かし、それぞれ新しい技術へ挑戦し、その成果を発表することにより、特色ある学科・学校づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業技術発表会の生徒意見体験発表部門で建築科が2年連続で最優秀賞を受賞、製図コンテストにおける上位入賞、建築甲子園奨励賞などの数多くの活躍をしている。建築科においては外部講師招聘事業（まちづくり課外授業）に取り組み、2年生が日向市役所と連携して日向市駅前広場に設置するベンチ案のプレゼンを実施した。</li> </ul>			
ふれ合いのあるきめ細かな教育の実践	教育課程の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の習熟度に応じた指導体制を組み、基礎学力の向上に努める。</li> <li>生徒一人一人の個性を伸ばし、進路実現が図れるよう工夫に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容の理解度を高めるために、少人数指導、習熟度別授業、ティームティーチング〔T・T〕に取り組んだ。その結果、指導が行き届き、生徒の取り組みが大変良くなり、授業の理解度も高くなった。今年度は、理科についても習熟度別クラス編制による授業が実施されたが、他の教科においても実施の方向での準備をして欲しい。</li> <li>「あなたは、授業その他本校での学習の在り方全般に満足していますか。」の質問に対して、「そう思う」・「ややそう思う」と回答した割合が72%を示している。</li> </ul>	2	2	
	授業の工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が生き生きと授業に取り組み、確かな学力が身に付く授業を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事に「授業を考える週間」を位置づけ、全職員で取り組むことができた。また、「先生は生徒の学習上の質問に適切に答えたり、教材や考え方に工夫をして皆さんの学力向上に努力していると思いますか」の質問に対して、「そう思う」・「ややそう思う」と回答した割合が80%を示していることから、これまでの取り組みの成果があったと考える。</li> <li>次年度も今年度同様、学校行事に「授業を考える週間」を位置づけ、エントリー制により授業公開と参観授業の時間を確保し、取り組みたい。</li> </ul>			
	生徒指導・教育相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会、学科会、学級担任、保健室、教育相談部等の連携のもと、生徒とのふれ合いの機会を重視し、組織的に取り組んでいく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会に教育相談部員が毎回参加し、学級経営や生徒対応に関わった。教科担任会も必要に応じて適宜開催し、関係職員全員で生徒対応を行った。このことが、問題を抱える生徒への適切な対応につながった。</li> <li>一部の生徒が繰り返し特別指導を受けることが多く、生活習慣の乱れが長期間で形成されていることが大きな原因だと考えられる。全国的にこういった問題は若年層化しているが本校でも例外ではない。指導に関しては常に係会を行うことで生徒指導部と担任団、学科、教育相談部が組織的に連携して取り組む必要がある。</li> <li>2年生に基本的な生活習慣が身に付いておらず、授業を受ける態度に問題のある生徒が多い。今年度は、1年生の宿泊研修を復活させたので、集団行動等を身に付ける機会とすることができ、指導の効果はあったと思う。次年度も継続して実施の予定である。</li> </ul>			
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の進路実現が図れるようきめ細かな進路指導を組織的、計画的に実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校はあなたの将来の進路についての相談機能を十分に果たしていると思いますか」の質問に対して、68%の生徒が「そう思う」・「ややそう思う」と回答した。また、企業見学会・進路説明会・インターンシップについては、学科および担任の協力を得て、進路意識を高めることができた。</li> <li>特にインターンシップは生徒達が働くことの大変さを知る良い機会なので、さらなる内容の充実を図りたい。なお、インターンシップ中の生徒の状況については、高い評価を得ている。</li> <li>「学校は進路講演会や研修会、インターンシップ、企業見学会などであなたに将来を広く考えさせる指導をしていると思いますか。」の質問に対して、76%の生徒が「そう思う」・「ややそう思う」と回答した。</li> <li>日向市役所に建築科から卒業生を含めて2名の採用が内定した。</li> <li>2月14日に就職希望者全員の内定が決まり、就職内定率100%を達成した。</li> </ul>			

評価項目 (重点目標)	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評定	学校関係者評定	学校関係者評価コメント
道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に対する思いやりの心をもつ生徒の育成をめざし、人間としての在り方生き方に関する道徳教育の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育全体計画を作成し、学校要覧に掲載した。また、各教科活動における具体的な道徳教育についての取り組みを実践した。</li> <li>人権感覚を育成するために山内文代氏に講師依頼をして、「生きていてよかった」の演題で講演会を実施した。</li> <li>保健講話の内容を生き方在り方とし、大川泰英氏（大川鍼灸治療院）を招き「いくつもの日々を越えて」の演題で講演を実施した。</li> </ul>			
職員研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師としての指導力アップや教育課題の解決を図るため、定期的・計画的な研修を実施する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒に対する人権教育のために、職員相互の校内事前研修を年3回実施した。また、救急法研修会、休暇制度の手引きについての研修などの職員研修を実施した。</li> <li>次年度は、さらに職員研修の内容充実を図りたい。</li> <li>来年度は、いじめ問題に関する校内研修を年間計画に位置付ける必要がある。</li> </ul>			
学習環境整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>夢と希望と笑顔あふれる学習環境を日常的に整備する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の施設・設備の学校環境としての満足度、環境美化の取り組みについて、生徒のアンケート結果からはそれぞれ、目標80%以上に対して、66%と65%と達成はできなかった。しかし、校内美化においては、生徒・職員共に美化への意識が高まり、きれいになっている。</li> <li>ゴミの分別の徹底について、土、日に出るゴミ（外部からのゴミ）の分別・分別の効率化・ゴミを出さない工夫等、今後の課題である。（部顧問の協力）</li> <li>施設設備の充実と安全対策・防火訓練の実施を、事務・係・担当者と連携し、校内生活が安全で充実したものとなるよう、今後も部会等で検討し、提案・実施していく。</li> <li>部活動生による朝の清掃を10月から実施し、体育館及び自動販売機周辺の美化に貢献した。</li> <li>写真部の生徒と書道・美術選択生による作品や建築科の取り組み紹介パネル等を校内に展示することにより生徒に自信と誇りを持たせ、自己肯定感の育成を図った。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>学校間における、生徒の学習能力を判断する目安となるようなものがあるのか。</li> <li>生徒側の評価は高いが、教師側が低いのではないかと。</li> </ul>
補講指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次早期における基礎科目の集中指導を通して、基礎学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後の活用について、運営委員会で議論してきたが、結論までには至らなかった。その後、放課後活用検討委員会に議論の場を移して検討をしている。基礎学力を付けさせるためには何か手立てをしなければならないという必要性には異論はないが、その方法については、朝の時間とする案と放課後の時間とする案とで、現在も議論中である。</li> </ul>			
開かれた学校づくりと学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校関係者評価の活用</li> <li>学校評議員、PTA、地域等の学校関係者評価を活用する。</li> <li>学校の教育活動を自己評価し学校改善に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校評議員会で出された意見や、生徒・保護者の学校評価アンケートの結果を全職員で共有するとともに、各項目について評価の結果を真摯に受け止め、来年度の教育活動に生かせるように各部署で検討し、できるものから積極的に取り組むことが大切である。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>新入学時の早い時期に、保護者を含めた担任との交流会等（学科別や学年別）を実施することにより、ガッチリとスクラムを組むことができると思う。</li> <li>保護者は学校に行きたがっている状況があるのではないかと。</li> <li>評議員会の開催案内もメールで行ってはどうか。</li> </ul>
広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校紹介広報誌を定期的に発行し、小中学校、地域産業界、公的機関等へも配布する。</li> <li>ホームページなどのWebページをはじめ、ICTを有効活用した広報活動に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校かわら版を月一回定期的に発行し、管内の中学校に配布すると共に、ホームページにて新しい情報を発信してきた。来年度は、さらに充実させるためにホームページ委員会等を立ち上げる必要がある。</li> <li>今年度は、中学校で開催している学校展の内容充実のために事務部にお問い合わせし、レンタカーを契約した。そのためほとんどの中学校で実施することができ、中学校へのPRを充実することができた。</li> <li>今年度も、中学校に向けた出前授業を実施し、工業高校の魅力をPRしたが、時期的にやや遅かった。次年度は工業部と検討し、もっと早い段階から展開できるような手立てを取るとともに、中学校のPTA研修視察を積極的に本校に招き、実習公開や授業公開を通して、工業高校を理解してもらい取り組みを行う。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページは以前と比べるとかなり見やすくなっている。</li> <li>ホームページを生徒の部活動の一貫として取り組ませると更新も頻繁にできるのではないかと。但し、担当者を配置し、管理をする必要がある。</li> <li>学校の取り組み等の情報を中学校や企業にメール配信したらどうか。</li> <li>ホームページのアクセス数はカウントしているのか。自分達の今後の指標となるので、数字等のデータとして残すことが大切である。</li> </ul>
授業公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部の方も含め、できるだけ多くの授業参観の機会を拡充していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者による授業参観の機会を年2回設定した。今年度は授業参観日とPTAのミニバレー大会を同日に開催したため、参加率の向上が図れた。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回の参観日は少ないと思う。期間を決めて、オープンキャンパスを実施して欲しい。</li> </ul>

評価項目 (重点目標)	評価指標	学校の自己評価結果コメント	自己評定	学校関係者評定	学校関係者評価コメント
学校施設・設備の一般への開放	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の施設・設備を一般へ開放することにより、学校を理解してもらう機会に資する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年まで実施していた、一般の方々を対象とした学校開放講座（電気科職員による電気工事士受験対策講座）は、大変好評であった。しかし、今年度は予算措置がなかったため、規模を縮小し実費を徴収する形で実施するを得なかった。今後も実施するのであれば、その方法を検討する必要がある。</li> </ul>			
学校経営方針の公開	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者へ学校経営計画を明確に説明するとともに、学科毎の3年間の教育指導計画を提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校経営計画については、年度初めのPTA総会において説明したり、学校のホームページに掲載し、保護者に周知を図った。</li> <li>学科毎の3年間の教育指導計画が作成できたので、3年間を見据えた資格・検定指導に役立てたい。</li> </ul>			
コース制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>3学科のコース制の充実を図り、特色ある学校づくりに努めることにより、地域に期待される学校づくりに努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次から総合的学習の時間等を利用しながら、2年次からスタートするそれぞれの学科のコースにおける授業内容・実習内容・進路について詳細な説明等を実施した。しかし、年間指導計画がまだ作成されていないため、今年度はその作成を1学年団にお願いした。</li> </ul>			